

「天からの 7 つの宣言（2）」

黙 14 : 9～20

1. はじめに

(1) キリストの再臨の前に何が起こるかを見ている。

①10 章～14 章は、挿入箇所である。

②10 章～13 章では、大患難時代の中間に起こる数々の出来事が取り扱われた。

③15 章～16 章では、大患難時代後半の 3 年半に起こる出来事が取り上げられる。

④14 章は、10 章～13 章と 15 章～16 章の「つなぎ役」を果たしている。

*14 章の内容は、7 つの宣言として出て来る。

*未来完了形の宣言である。

(2) 14 章の内容とそれが啓示された目的

①偽の三位一体の目的は、必ず失敗することを示すため。

*イスラエル民族を抹殺しようとする試みは、失敗に終わる。

②「鉢の裁き」（15～16 章）の結果がどのようなものであるかを示すため。

③大患難時代の後半を生きる聖徒たちに、励ましを与えるため。

2. アウトライン

(1) 第一の宣言：シオンの山の上の 144,000 人（1～5 節）

(2) 第二の宣言：永遠の福音（6～7 節）

(3) 第三の宣言：バビロンの崩壊（8 節）

(4) 第四の宣言：獣を拝む者たち（9～11 節）

(5) 第五の宣言：聖徒たち（12～13 節）

(6) 第六の宣言：刈り取り（14～16 節）

(7) 第七の宣言：神の激しい怒り（17～20 節）

3. 結論

(1) 永遠の滅び

(2) 7 つの祝福の約束

黙示録 14 章の 7 つの宣言について学ぶ。

I. 第四の宣言：獣を拝む者たち（9～11 節）

1. 9 節

Rev 14:9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、

(1) 第3の天使が、第4の宣言を発する。

①これは、獣の刻印を受ける者への裁きの宣言である。

②同時に、信者への励ましの宣言である。

(2) 「獣の刻印を受けるなら」

①獣（反キリスト）の刻印は、額か手かに押される。

＊神の刻印のパロディである。

②これは、獣を神として永遠に受け入れたというしるしである。

③黙 13：17

Rev 13:17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。

④獣の刻印を身に受けると、もはや救われる可能性がなくなる。

⑤ある人たちは、携挙以降に救われる人はいないと考える。

⑥しかし、大患難時代においても救われる人が出る。

⑦獣の刻印を受けると、回帰不能点を越えたことになる。

＊救いの可能性が消滅する。

(3) 2テサ 2：8～12

2Th 2:8 その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。

2Th 2:9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、

2Th 2:10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。

2Th 2:11 それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。

2Th 2:12 それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。

①「不法の人」とは、反キリストである。

②彼の背後にはサタンがいるので、さまざまな奇跡を行うことができる。

③真理を拒む人たちは反キリストに欺かれる。

④反キリストを受け入れる人たちは神の裁きに会う。

2. 10～11 節

Rev 14:10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲

む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。

Rev 14:11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、
まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。

(1) 「神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒」

- ①これは、「鉢の裁き」のことである。
- ②「鉢の裁き」は、獣の刻印を受け取った人たちに向けられたものである。
- ③劇的表現が用いられている。「混ぜ物のない本物のぶどう酒」
 - *恵みや憐みの要素が全くない。
 - *永遠の苦しみを意味している。

(2) 「聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる」

- ①これは、「燃える火の池」での苦しみである。
- ②自分たちが拒否したお方の前での苦しみである。

(3) 「そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る」

- ①この苦しみは、永遠に続く。
- ②彼らは、無知のゆえに苦しむのではない。
- ③彼らは、福音のメッセージを 2 度にわたって拒否した。
 - *144,000 人の伝道
 - *第 2 の宣言で、第 1 の天使が福音を伝えた（6～7 節）。
- ④彼らは、獣の刻印を受けることを自ら選んだのである。

II. 第五の宣言：聖徒たち（12～13 節）

1. 12 節

Rev 14:12 神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」

- (1) 獣の刻印を受けた人々への裁きの宣告は、聖徒たちには励ましとなる。
 - ①ここには、迫害の中でもキリストを信じ続けよというメッセージがある。
 - ②殉教の死を遂げる者や、隠れ場に身を潜める者も出る。
 - ③しかし、彼らの最後は、獣の刻印を受ける者の最後よりも素晴らしい。
- (2) 信仰と行動が合致する必要がある。
 - ①どの時代にも当てはまるが、特に、大患難時代がそうである。
 - ②信じているが、とりあえず獣の刻印は受けておくというのは、だめ。

2. 13 節

Rev 14:13 また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

(1) ヨハネは天からの声を聞いた。

- ①天使を仲介としたものではなく、神からの直接の声である。
- ②伝達内容が重要な場合、神が直接お語りになる。
- ③この声は、イエス・キリストの声であろう。

(2) 2重の祝福が宣言される。

①「今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである」

＊殉教の死を遂げる者には祝福が約束されている。

②「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである」

＊これは、聖霊の声である。

＊彼らにとっては、殉教の死は迫害や苦難からの解放である。

＊永遠の休息と永遠の苦しみの明らかな対比がある。

＊死者一般への適用ではなく、大患難時代の殉教者への約束である。

Ⅲ. 第六の宣言：刈り取り（14～16 節）

1. 14 節

Rev 14:14 また、私は見た。見よ。白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が乗っておられた。頭には金の冠をかぶり、手には鋭いかまを持っておられた。

(1) 「また、私は見た」

①新しいテーマに移行する。

②第6の宣言と第7の宣言で、2種類の「刈り取り」が啓示される。

＊ある人たちは、ともに罪人たちの刈り取りと解釈する。

・第6の宣言は、一般的な刈り取り。

・第7の宣言は、最終的な刈り取り。

＊別の人たちは、信者たちの刈り取りと罪人たちの刈り取りと解釈する。

③ここでは、第6の宣言は信者の刈り取りと解釈する。

＊「刈り取り」は、救いを表現する際に使用する言葉である。

＊大患難時代の後半に、霊的リバイバルが起こると解釈する。

(2) 「白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が乗っておられた」

- ① 「白い雲」は、シャカイナグローリーである。
- ② 「人の子のような方」とは、イエス・キリストである。
＊これは、メシアの称号である。

(3) 「手には鋭いかまを持っておられた」

- ① 霊的収穫を集めるためのかまである。

2. 15～16 節

Rev 14:15 すると、もうひとりの御使いが聖所から出て来て、雲に乗っておられる方に向かって大声で叫んだ。「かまを入れて刈り取ってください。地の穀物は実ったので、取り入れる時が来ましたから。」

Rev 14:16 そこで、雲に乗っておられる方が、地にかまを入れると地は刈り取られた。

- (1) もうひとりの天使が、キリストに懇願する。

- ① 収穫の時が来たので、刈り取ってください。

- (2) その願いに答えて、キリストが地にかまを入れ、地を刈り取る。

- ① 大患難時代の後半でも、救われる人が多く出る。

IV. 第七の宣言：神の激しい怒り（17～20 節）

1. 17～18 節

Rev 14:17 また、もうひとりの御使いが、天の聖所から出て来たが、この御使いも、鋭いかまを持っていた。

Rev 14:18 すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。ぶどうはすでに熟しているのだから。」

- (1) 鋭いかまを持つ天使が、天の聖所から出てきた。

- ① これは、罪人たちの刈り取りである。
- ② 火を支配する権威を持った天使が、先の天使に刈り取りを懇願する。
- ③ かまを持った天使は、それを実行する。

2. 19～20 節

Rev 14:19 そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。

Rev 14:20 その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。

(1) 「酒ぶねに投げ入れた」

- ①酒ぶねに投げ入れることや酒ぶねを踏むことは、神の裁きの象徴である。
- ②神の怒りの内容が、次に出て来る「鉢の裁き」である。

(2) 「血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった」

- ①これは、ハルマゲドンの戦いの結果の描写である。
- ②「酒ぶねが都の外で踏まれた」は、エルサレムの外での裁きを指している。
 - *オリーブ山と城壁の間にあるヨシャパテの谷（ケデロンの谷）
- ③大量の血が流される。
 - *ぶどう液ではなく、血が流れ出す。
 - *馬のくつわに届くほどになる。
 - *流れて行く長さは、約 300 キロメートルにも及ぶ。

結論：

1. 永遠の滅び

- (1) 永遠の滅び（苦しみ）という教えは、人間的には到底耐えられないものである。
 - ①それゆえ、その教えを認めない人もいる。
 - ②逃げ道として、魂の消滅を主張する人もいる。
 - ③最終的な判断は、聖書がどう教えているかである。
- (2) イエス・キリストは、永遠の滅びを教えておられる。
 - ①ゲヘナという言葉は、新約聖書に 12 回出て来る。
 - ②ヤコブ 3：6 以外の 11 回は、すべてキリストが語ったものである。
 - ③ゲヘナは「燃える火の池」と同じである。
 - ④新約聖書の中で、永遠の滅びについて最も語っているのはキリストである。
- (3) 永遠の滅びは、神の義から出て来るものである。
 - ①神の義は、神の愛と同じように不変のものである。
 - ②キリストを拒否する人には、神の愛は届かないのである。
- (4) マタ 25：46

Mat 25:46 こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。」

(5) 2 テサ 1：6～9

2Th 1:6 つまり、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、

2Th 1:7 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現れるときに起こります。

2Th 1:8 そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。

2Th 1:9 そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。

2. 7つの祝福の約束

(1) 黙1:3

Rev 1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

①黙示録を学ぶことの祝福

(2) 黙14:13

Rev 14:13 また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

①大患難時代にキリストを信じるがゆえに死ぬ人は、幸いである。

(3) 黙16:15

Rev 16:15 ——見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである——

①キリストの再臨に備えながら生きる人は、幸いである。

(4) 黙19:9

Rev 19:9 御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい」と言い、また、「これは神の真実のことばです」と言った。

①小羊の宴会での花嫁は、教会である。

②その宴会に招かれるその他の聖徒たちがいる。彼らは、幸いである。

(5) 黙20:6

Rev 20:6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。

①聖徒として復活にあずかる者は、幸いである。

(6) 黙22:7

Rev 22:7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

①黙示録の預言を信じ続ける者は、幸いである。

(7) 黙 22 : 14

Rev 22:14 自分の着物を洗って、いのちの木の実を食べる権利を与えられ、門を通過して都に入るようになる者は、幸いである。

- ①信仰による救いの結果として行為が伴っている。
- ②いのちの木の実を食べる権利を与えられた者は、幸いである。

まとめ

- ① 聖書を通して真の神を知った。
- ② 「私はこう思う」ではなく、「聖書はこう言う」を優先すべき。
- ③ 神の愛と神の義は永遠である。